

第 12 回 議員定数等議会改革推進特別委員会記録

日時：令和 2 年 7 月 28 日(火)

13 時 31 分～15 時 36 分

場所：第 4 委員会室

【出席者】 牛尾委員長、西川副委員長、沖田委員、小川委員、笹田委員、佐々木委員
西田委員、西村委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 古森局長、下間書記

議 題

1 議員定数等について

- ・「議員定数を考える視点」を踏まえての各会派等における考え

資料 1

2 市民アンケートを踏まえた市民の声を聞く取組について

3 その他

【議事の経過】

(開議 13時31分)

牛尾委員長 | 第12回議員定数等議会改革推進特別委員会を開会する。西村委員は少し遅れてくると聞いている。

議題1 議員定数等について

・「議員定数を考える視点」を踏まえての各会派等における考え

牛尾委員長 | 前回、議員定数を考える視点について各派でもんでいただきたいとお願ひした。今日はその集約ができていれば伺いたい。

沖田委員 | 山水海は、1委員会7名必要とのことで、3委員会かける7名で21名、それプラス議長で22と提案する。

笹田委員 | 補足で、常任委員会の数から議論したのだが、様々な問題を抱える中で多様な意見が必要だろうと。1委員会6名と7名でどちらが良いかという議論があったが、支所を抱えていることもあるため、1委員会7名が適切だと話し合った。

広聴機能にしても、自治区制度が新制度に代わり、まだ中山間地域が不安を抱える中、声が届かない状況を作るのはどうかという意見があり、多様性のある意見を十分反映できるのは22名ではないかと議論した。

市民の視点から考えるというところについては、人口規模、他市との比較、財政面については、様々な課題が違うので参考になるところとまらないところがあるため、浜田市独自で考えるべきだと議論した。アンケートの結果が話し合いの中でもとても重く、18名が最多数だったが22名という数が市民から理解されるだろうかという議論があった。数字もそうだが、それよりもアンケートの内容を改善していかなければならない。

浜田市は、特定第三種漁港や重要港湾がある。これまで議会として、特三の協議会もあるし、なかなか人数については議論できなかったが、あまりそこは考える必要はないという意見だった。

佐々木委員 | 議会機能から考えて、委員会の人数だが6名から8名が適当ではないかということが一般論であるが、委員会での質疑の状況を見てみると低い状況にある。その中で8名とか7名とかいう人数は説明して理解していただくのが難しい。ということで、1委員会6名が妥当ではないかと話した。常任委員会の数としては3つ。

広聴機能の代表制ということだが、地域の多様性がある。住んでいる地域、これまでの各議員が育ってきた環境を踏まえ、多様性のあるところで、いろんな意見を出して反映するのが重要な視点であるが、多様性もなかなか確定できない不透明なものである。重要なところは、福祉向上のための多様性としての定数をどうもっていくかということになるが、そうかと言って、多様性はどのくらいかという明確なものがない。重要なことは、それぞれ出てきた議員がしっかり意見を出し合い、多様性を

機能させることが非常に重要だと話した。議会機能を果たすためには全議員がしっかり審議の準備をし、自分の意見を少しでも反映させる努力をすることが大前提である。興味がないから発言しないということでは審議としての機能を果たせない。その辺りは十分に議会機能という視点で各議員が努力すべきことである。

市民の視点から考える点で、人口規模、他市比較、財政面。これもある程度は考慮が必要であるが、かといって人口の多少や面積、財政などが決定的な議員定数の議論になるとは言い切れない。しかし考慮は必要だと話した。

今回の定数に関するアンケートだが、最新の我々がもっている定数にかかる大きな材料となる。アンケートは取ったがやはり、議会の中身が市民に伝わっていないので、結論から言うとなかなかアンケートにはならなかったという思いがある。かといってどうすれば良かったかは、永遠のテーマである。

その中でも代表的な声としては議員が議会以外で何をしているかわからない、もっと市民の意見を聞いてほしい、広聴してほしいというのが多くの意見としてあったので、我々はそれをどう受け止め、声を反映させていくかが重要ではないか。その取組が定数の一定の理解につながっていくものと話した。

浜田市の特殊性だが、何点か挙がっている。どれも浜田市にとって重要な案件だが、これについてどの程度、議会・議員として中に入っているかということ、それぞれ得意分野・不得意分野とある。これについて個々の取組みもできていない気もするので、なかなか理由づけが難しい。しかし特殊性がある浜田市だからこそそれぞれがしっかり勉強しながら内容を把握し、それに対する施策を検討なり、提言していくことが大事である。これも今後、定数のある程度守る範囲で取り組むべきことだと思う。

いずれにせよ今回のアンケートは、やった以上、その答えは我々が出さねばならない。やはりわかってもらっていないから議会側と市民側とのギャップであると感じた。

小川委員

①について言えば、議事機関としての議会を保障し、熟議を行うということが必要であり、そのためには現行の24人が妥当と考える。それでも理解が得られないとすれば、前回の定数の議論にあった22人も最低基準だとして死守すべきということで、前回の西村委員が言われた意見と同じである。

②の広聴機能については、議員とは、住民を代表する役割もあると考えるので、少数意見も含めて、多種多様な意見を審議に反映させるためにある程度の人数を増やす必要があるが、今の24名を増やすことについては、なかなか難しい、だからと言って、24名で市民全体の各層の意見が全て網羅されているかということ、それも網羅されているとは言い難い。

それと、永遠のテーマと言われる議会改革を進めていくためには、一定程度の人数のゆとりが必要である。アンケートにもあった少数精鋭の考え方は定数にはなじまないのではないかな。

(2) については、人口で言うと類似団体ではそれぞれの条件の違いがある。当該市にとっては整合性があったとしても、基準にはならず、あくまで目安にしかならない。他市との比較についても同様である。参考にするとすれば、その定数に至った時の市民の意見と議会側の考え方の違いを読み解くような中で参考にはできる。財政面については、間接民主制を維持するためのコストは必ず必要になるし、議員をどれだけ減らせれば財政的な改善になるかという意味では、我々会派の中では、減らすことによる弊害のほうが大きいのではということだった。

アンケートの結果がどうだったか、どこまで尊重するかも含め、公表のあり方や、委員会としての検証もすべき。今回のアンケートのやり方について、市民全体の縮図にはなっていないのではないかな。新聞やテレビ等での世論調査では偏りがないように無作為抽出して全体的な意見反映ができるような、それに近づけるように努力をされているが、今回のアンケートはそうではない。結果的に出た意見というのは、最近インターネット調査もされているが、その弊害というのは専門家の方も指摘されているようにマイナス意見のほうが反映されやすいという問題もある。結果的にはニーズなども出ているが、アンケートに出された意見は、二元代表制に対する議会への誤った認識ということ。それと議会改革の課題や議員の資質ということと定数問題は、そもそも別問題だと思うのだが、そこを混同したような意見が「減らすべきだ」という意見には多かったと思う。そういう意味では、このアンケートの結果は、参考にしたり、今後の議会改革のヒントにはなるが、何人の意見が多かったから尊重すべきだというのは全く違うと思っているし、会派の中でもそういう認識をしている。

(3) について。定数が減れば減るほど地域の声は反映されにくいのは当然である。②の特三漁港の関係についても、定数削減を求める方々に理解を求めるための根拠としては弱いと思うが、浜田市の特徴ではあるので要素としては必要だと思う。それと市域の広さの関係だが、ご存知かと思うが面積人口方式ということで、関西大学の林教授が言われている方程式があるが、それに当てはめて計算すると、今の浜田市の人口や面積からするとだいたい23名程度、面積部分だけを計算すると4名程度同じ人口比率であれば増える要素になっている。そういうことから最低でも22名は死守、現行の24名が妥当ではないかということもそれなりの根拠があると感じている。

浜田の自治区制度方式や特三といった特性はわかっている。議員定数を絡める問題ではない。議員を減らしても財政面はさほど変わらない。議員を減らせばいいというだけの方もおられるが、中には関心を持って

西田委員

見ている意見もあった。議会機能だが、常任委員会の1委員会の人数は今までだいたい8名できた。7名ずつなら21名。

二元代表制の一翼を担うなら、大事なものは議員1人1人の資質である。浜田市議会は18名でもやっていけるという声もあった。しかし今回そこまでは難しいだろう。地域の多様性のある意見を聞くのも大事だが、議員が何人なら届くか、何人なら届かないか、ではなく、議員の資質がもっとも重要である。

うちの会派は22人と20人とで分かれている。18人はとても厳しい。うちの会派で1本に絞れというなら20人のほうが強かった。

西村委員

私も市民アンケートを個々の具体意見についても読み込んだつもりである。前は読み込みが不足していた。やはり多い意見としては、私らの資質の問題を問う意見が非常に多かったというのが1つ。これは皆も感じておられると思う。これは客観的事実として受け止めないといけない。先ほど小川委員も言われたように、そのことと、仮に浜田市の議員の資質が他と比べて劣るとしても、そのことと定数は基本的に切り離して考えるべきだと、私は考えている。仮に24人を20人にしたところで質が上がる理屈はない。まったく別の問題であり、分けて考えるべきである。駄目な議員がいるという評価は素直に受け止めるべきだが、だから定数を減らすべきという意見には同意できない。

もう1つ多く感じたのは、こういうアンケートを定期的にやってほしいという意見だった。ということは、もっと自分らの意見を直接聞いてほしいと。だから議会報告会をやっているのだが、実際、回答をくれた市民の多くはそのようには感じていないという結果である。議会報告会の存在を知らないのか、知っていても出てみようという気にならないのかわからないが、おそらく望む形式ではないのだろう。もっと日常的に気楽に自分の意見を述べたり、議員の意見を聞いたりする場がほしいのだろうと、素直に受け止めた。議員なり議員の質の問題なり、市民の意見を受け止めてもらっていないことへの反発の気持ちが、私には理解できないが、定数を減らすような意見になっていったのかと私は受け止めたし、財政が厳しいから減らすべきだという意見もまったく納得いかない。減らす要素はいっぱいある中での選択肢の1つなのだろうが、それには理解できない。

アンケート結果は厳粛に受け止めないといけないとは思ったが、それをほぼ鵜呑みにする形で自分の判断を下すようでは、全く議員としてあるまじき姿勢だと思う。

この前も言ったのだが改めて、浜田市の一般質問と真庭市の一般質問の状況を再度シビアに調べてみたが、真庭市は今24人だが、26人の時代は4年間で252人が一般質問している。その後24人に減った4年間で237人が一般質問をしている。だから減っている。それが当然である。2人減るのだから。直近の真庭市の状況を見ると、その前の24人の4年間

と、今1年くらいしか経っていない一般質問をする人の率を見ると、前4年平均は62%程度。いまの1年間の平均は57%くらいで、下がっている。真庭市はそういう傾向なのだと見て取れた。

浜田市はどうかと言うと28人の時代の4年間を見ると、一般質問延べ人数は272人、これに対して24人になった4年間では309。浜田市は4人減っているが、延べ一般質問人数は逆に増えている。今の24人の2年ちょっとの10回分の率で言うと、89%くらいになる。その前の4年間と比べると86から88に伸びている。何が言いたいかというと、もう少し議案質疑や委員会の質疑等も調査研究する必要があると思うが、他市との比較はある程度避けて通れないと感じている。そうであればこちらが積極的に調査研究して、そういう部分での他市との比較、面積、人口、財政だけでなく、議会の中身、議会の質も調査して、市民にその結果を返していく。それこそアンケートをたくさん取ってほしいという声に応えるためにも、進化したアンケートを取っていき、ある程度続けていけば違う結果になっている可能性もあると見ている。いずれにせよ言いたいのは、浜田市の議員は少なくとも今言った一般質問の限りでは非常に検討していると言えるのではないかと思う。

前回も言ったが、結論的には本当は24人より多くを望みたいのが本音である。ただ現実としては下げる方向を望んでいच्छる現実を見れば、その中で増やすのはなかなか言い難いため、現状維持の24人と答えざるを得ない。

牛尾委員長
西川副委員長
牛尾委員長

副委員長から補足はあるか。

ない。

もともとこの特別委員会の中で議員定数の問題を考えるにあたり、削減ありきではないという入り口論だった。現行の常任委員会の質問の在り方、一般質問の中身、執行部とのやりとりを見ていくと、十分ではない。マニフェストランキングは県内8市でずば抜けているが、議員のレベルを上げないといけな。24名でやっても良いのではないか。

根拠は、有権者は前回と千人ちょっとしか減ってない。広聴機能からしても24名は必要ではないかという意見があった。

市民の視点から言えば、人口規模や他市との比較で言えば、24でも良い。浜田市議会のコストは平均より低いので、現状に何ら問題ない。

議員定数のアンケート、もともと議会報告会でしゃべってもらってその場でアンケートを取るはずだった。それに比べると結果が違うのだろうが、この結果の中から読み取るものは随分あるだろう。今後も市民に対する議会のあり方を変えていかないとはいけな。そういう中で言えば、3.5%だったがやはりそれは民意として受け止めるのであれば、22人もやぶさかではない。

浜田市の特殊性を考えると、浜田市は面積が広いので一定の人数は必要だろう。特定第三種漁港、重要港湾もある。私は特三は非常に重要だ

と思っているが、これがあるからといって定数に反映はしないのだろうとも思う。市域については同じくらいの面積の益田市が22名なら浜田市も22名で良いとなる。

最終的なすり合わせには至らなかった。22人か24人かという状況である。

皆の意見を一通り聞いたところで、少し休憩とする。

[14時12分 休憩]

[14時19分 再開]

牛尾委員長

委員会を再開する。

相当絞り込みして出してもらったので、先が見えてきた印象があるが、一方、両論もある。

今日の結果をどの方向付けに持っていくかが課題である。せっかくこの特別委員会なので、委員会として1つにまとめれば理想である。皆のご意見をいただきながら、できれば、まとまったほうが委員会意見として重みがあるのだが。

笹田委員

前は全会一致ではなかった。

牛尾委員長

今後どう集約していくかについて、皆から意見をいただきたい。今日こうやって結果が出たのは初めてで、会派に知らせないといけないうから、一度今日の結果を持ち帰ってもらわないといけないうのだが、今日の時点で率直な意見を聞いておきたい。

佐々木委員

結果というのは一応数字をもって結果とする意味合いが強いのか。

牛尾委員長

いろいろ理由があって結果が出ている。各会派の理論なので、それをどうまとめるかの作業は必要だろう。特別委員会としては、統一見解を出すのが役目だと思っているので、結論を出す努力はすべきだろう。各議員に関わることなので意見を伺いたい。

佐々木委員

ある程度数字が出たら、なかなか言い出した数字に対して考え方を考えるのは難しい作業になっていくのかなと感じる。他の会派の意見を聞いて考えが変わるかという難しい。今までの流れからしても。

沖田委員

考えれば考えるほど難しい話だと思う。アンケートを取ってパンドラの箱を開けてしまった。聞いた限りは減らさないとなくなっているという印象がある。何かに追われるかのように減らす。正直、浜田市民は勝手なイメージで18人と言い、新聞に取り上げられて数字が独り歩きしている。それでも減らさなければならぬという議論の中、見えてきたのは広聴機能の充実なのかと思う。闇雲な議論ではなく、これだけは必要だろうという割り出し方であるべきだと思う。

牛尾委員長

パンドラの箱を開けたと言われたが、議員定数は議員自らが決めることになっている。アンケートがあるからとそれにとらわれてはいけないう。しかし読み取るものは読み取って。あくまでもアンケートが出たから引けないうのだということではない。新聞記者が何を書こうか、嘘でなけれ

沖田委員
牛尾委員長
小川委員

ば、報道の自由があるから。

新聞社の好みもある。

報道の自由は憲法が保障しているから。

アンケートの結果をどう分析するか。こういう内容があったということは、お知らせするべきだが、定数の考え方にすべて反映させなければならぬということ、はっきり言ってない。なぜなら、言いたい人だけの意見であって全体意見ではないから。参考にはなるが、基準にはならない。流されるのは危険である。

牛尾委員長

この委員会の中で十分議論しながら、この中でもんで、当時これがベストだと考えてやったのは委員会の皆に了解してもらっている。急遽、公民館が閉まると聞いて配った。アンケートが出たからといってそれに拘束されるのではなく、直近の民意を聞くべきということでやったのである。ただコロナの影響もあって聞き方が十分ではなかったものの、結果はあるのでこの中身は傾聴に値する。しかし、聞いたからには削減しなければならないという沖田委員にはちょっと考え方を改めてもらっているのでは。

西田委員

私はアンケートを取って大正解だと思う。我々が結果に動揺する必要はない。市民の声を聞いたことはプラスだと思う。我々がぶれずに、アンケート結果を真摯に受け止めながら、是正すべきところを直せばよい。

アンケートは取れば取るほど市の状況が見えてくる。余分な情報もたくさんあるが、その中からいかに真意をとらえるか。

やがては議員と市民の距離が縮まって、民意がより反映されるのではないか。

佐々木委員

今回のアンケートで、数が目立つが、やるべきことが見えてきたのが一番の成果だと思う。なかなかそういう機会もないし、身近な人ではない方がどういう意見を持っておられるか、素朴にも見えてきたのが大きな成果である。

できる範囲で答えていくのが今後の課題だと思うし、そのためにどれだけの人数が必要かという考え方がある。何もせず議論するのではなく、何をすべきか、議論が進められたら、アンケートを寄せてくれた市民に応えることにもなる。

笹田委員

アンケートの人数については個人的には考えていない。議員になる前は、議員の仕事が分からなかった。何しているか分からないから減らせばいいと僕も考えた。しかし今、必要性を強く感じる。いろんな課題があり、疎い情報にはフォローしてもらえる。例えば16名がそれだけの精鋭なら良いが、全員がそのレベルでできるかというところ、正直疑問である。地域からいろんな思いを持って出るにしても、いろんな意見が出て初めて両輪になれるのではないかと感じている。アンケートはもちろん取って正解だと思うが、その中身、市民からいただいた意見を、10年前とは

違うし、8年前とも違うので、真摯に受け止め、議会改革の新たな課題をいただいたとして取り組むことが必要だと思う。

副議長が言われたように、数字がどうであれば議員定数を考える視点についてとなると、どんな数字になっても市民に理解してもらえない数ではないとならない。この委員会で揉んで積み上げていかないと、一致団結しての提案にはならないように思う。

西川副委員長

アンケートはこの特別委員会になってから自然な流れでやることになった。研修会に3月に出て、大学講師が、ある自治体からアンケートをやろうかどうしようか相談をされて、やめておくとアドバイスしていた。どの自治体も市民とのコミュニケーションはあまりできてないので結果は見えていると言われた。今回は議長団から説明ができなかったのも、議会改革の流れは議会だよりの紙面に書いた。8年前のアンケートと比べると、前は減らすのが98%、今回は87%で、多少は成果があったのかと思う。アンケートの結果は、市民と議会のコミュニケーションができてないということだと思うので、それを真摯に受け止めるべきだと思う。こういう議論をした、ということをお話していくことが大事なのだと思う。

牛尾委員長

西村委員から意見はないか。

西村委員

やめておく。

佐々木委員

今回は本来なら議長団が、議会の役割、最近の情報、改革について説明して理解を得た上でアンケートを取るはずだった。しかし今回のアンケート結果を見ると、少々説明してもなかなか理解が得られるものではないと率直に感じた。他の議会等を見ると、コミュニケーションを深めれば理解してもらえるのは間違いない。アンケートの結果も違ってくる。かといってハードルが高い。我々は二代表制の一翼を担う素質を養わねばならない。しかし専門家ではない。大事なのは市民目線だろう。市民の代表として出ているのだから。そこに鍵がある。市民目線を磨きながら、議員定数を考えるのも大事だろう。

牛尾委員長

前回は話したが、今回も限られたアンケートから、僕らが傾聴に値する意見がある。やっていかないといけないことがある。定数とは別にやっていかないといけない。

一通りご意見を伺ったので、再度持ち帰って次の回に、それを踏まえて議論して、会派の意見の確認の意味でも持ち帰ってもらうのが良いか。

笹田委員

今、ある程度の数字が出たので、その数字をいかに委員会で話していくかが重要である。先ほどの議員定数を考える視点についてのところを正副委員長で、どういう資料があればそこがしっかりまとめられるかも含めて考えてもらって、今まで過去に出してもらった資料があると思うので、この案についてはこの資料をもとに参考に議論をしよう、という形で進めたらどうか。我々はこの数字で会派で話してきたので、この委員会で積み上げてきた内容について説明すれば、さらに議論が深まる、

納得してもらえと思う。できればそういう進め方をしてもらえればありがたい。

下間次長

少しわからなかったのですが、どういう資料か。

笹田委員

例えば人口規模の資料とか。

下間次長

これまでもさんざんそういった資料は出してきているが。

笹田委員

そうそう、そこをもう1回議論するのに、ではこの議論をしましょうという時にその資料をすぐに出せるように。

牛尾委員長

例えば、今のは石見4市の方が、我々が比較しやすい。遠くの類団、行ったことのないような市を比較するよりも。

笹田委員

さんざん出してもらった資料を議論する時に、これについて議論しようという形でやってもらったらありがたいかと思う。

下間次長

先ほどの皆さんからの意見ですと、そういう他市との比較というのはあまり関係ないという話が出ていたが。

笹田委員

財政面の話も少しあつただろう。例えばの話。

牛尾委員長

他市比較で言えば江津が2万3千で定数15名、大田が3万2千で20名、前回無投票だったから今回減らすという。益田が4万5千くらいで22名。

小川委員

議員定数の講演等を聞くと、先ほど言った面積と人口方式という計算式が出る。あれはあまり信憑性がないというか、あてにならない。全然市民の理解が得られない。

西村委員

だってベースになる数字が何を意味するか、という視点がない。

牛尾委員長

議員定数が定まっていた時代は終わった。自らの考えで決めることになっている。県下の数字は多少気にすべきだろう。他市との比較は当然あるが、我が浜田市の定数を決めるのは、市民が納得するかどうかは別にして我々が納得できる提案説明ができるよう、そのための参考資料というのは、笹田委員が言われることもわかるのだが、どこから探せばいいのか難しい。

笹田委員

西川副委員長が出した資料がわかりやすかった。あのような資料を作成して議論すればわかりやすいかと思った。例えば、西川委員の5ページの資料で常任委員会構成人数について、類似団体の情報も出ている。これで人数構成は、常任委員会数は出ている。僕らの会派からするとこの数字は説明しやすい。これが積み上げだと思う。

これなら説明できると思った。類似団体としてもこういう比較数字が出せれば、自ずと理想の数字に近づいていくのではないかと。

下間次長

今、送った資料には財政的な数字を加えた。前回、西田委員から言われたと思うが、資料に、財政状況もと言われたので追加したものである。

牛尾委員長

財政力指数と委員会に関係性がない。

西村委員

私は人口規模や今まで参考にしてきた面積や財政力は、あまり関係ないし、比較したってわからない。

だからそうではなく、実際に自分らがこの期で2年半やってきて、例

例えば総務文教委員会は10時から始まって平均的にどの議案と請願の質疑でだいたい何時間かかり、執行部の報告や所管事務調査等がどれくらいかかって、その数字を出した上で、それで自分の2年半を振り返ってみて、委員会の運営としてどうなのか、自分の尺度でわかる。

そのことと、例えば益田市議会では、どういう実態なのかとか、そういう比較をしないと、浜田市だけで終わっていたらそれこそ比較がないと分からない。

笹田委員
西村委員
牛尾委員長

だから、先ほどの真庭市のように調べようということ。

そう、例えば。

浜田市議会のランキングは高いわけだ。益田と比較してもこの辺の市と比較しても比較にならないという考え方もある。全国と比較してどうあるべきかという視点は必要かと思う。

西村委員

今は定数について議論しているわけだから、常任委員会が8人ずつで議論してみて、2年半経過してみてどうだったのかという。いや6人でもいけるというように思っているのか。私は正直、7人か8人かという時には迷う気持ちはある。ただ、先ほども言ったが、実際、24人でやって、議長を除く23人で一般質問をして、平均的に21人程度はしている。それを22人に減らすとか、例えば20人に減らすとかいう議論になるわけだから、それでは削って良いのかと。自分の一般質問を削って良いのかという議論をしないと深まらないと思う。

牛尾委員長

ただ浜田市議会の皆が一般質問をしないといけないようなある種浜田市議会独特の空気を背負っている。ケーブルも入って、それぞれの使命感も強いからほとんどの議員が質問している。それが他市より優れている。しかし市民の評価につながっていない。また、先ほどの常任委員会の積み上げもあるが、かつては、例えば8人だと、1人は委員長で抜けて、4対3人になる。ところが1委員会7名とすると、1人は委員長なので可否同数が起こる可能性があって望ましくない。それからいくと数は偶数ではないかという考え方もある。そういう議論だけでも成り立たない気がする。

西村委員

だからこの議論だけで成り立つとは思っていない。ただ、いろんな、議会運営を1年通して、あるいは4年通してやってみて、こういう要素が、議論がいる。

そのテーブルをいくつ作るかの議論が必要ではないかと思う。今からでも。ただ時間が足りないかもしれないが。でもそれは議会改革にもつながるからやる必要がある。やる必要があると思った。私は調べて初めてそういうことが分かった。議会運営のいろんなものを調べていけば面白い。

牛尾委員長

だからその件は前任次長に言って、浜田市議会の中で質問者の率を出すようにはしている。それは議会改革の一環で出すようにしている。だからそのことから定数を考えるのは、市民の理解に結び付かないような

気がする。

いずれにせよ、この特別委員会では一定のスケジュールでやると言っている。当初の予定では9月提案だった。今日いただいた意見をまとめようと思うと、あと8月に2回くらいやる必要があるが、そうすると、1回は今日もう一度この意見を会派に返して、もう1回持って帰ってもらおうほうが良いのか。それとも今言われたようにもう少しカウントするような条件を正副で出せというのか。努力はしますが、それが良いのか。

笹田委員
西村委員
佐々木委員

積み上げる内容がないと説明ができない。

私も最終的にはそうなると思う。

西村委員の言われる議員個人としての議会での役目を果たす一般質問は非常に重要な視点である。何度も言っているが、定数を減らすことで当然、言われるように一般質問が減る、そうすると機能が落ちる。では逆に今の定数でいくとして、その機能を高めるにはどうしたら良いかということをしこの委員会の仕事ではないかもしれないが、定数議論と関わってくる大きな課題なので、それを挙げていく、こういうことをすると定数が必要ですよというところで、委員会として取り組んでいけばどうか。

1つは委員会の中で議員間討議をやり始めた。これまでは1議員と執行部とのやり取りだったが、議会が一丸となって二元代表制で戦う姿勢が議員間討議に反映されていると思うので、これは1つの個人一般質問とは別の大きな議会としての機能だと思うので、これをさらに深めたりだとか、委員長もいつか言われたような広聴機能、しっかり住民の声を市政に反映させるためにしっかり聞いていこうと。これを議会として取り組むことが、市民の評価に大きくつながると思う。そのためには人数が必要なので減らす議論にはなりにくい。これをやることで定数確保の理由付けというか、意味合いをしっかりと反映させるところが先行して必要ではないだろうか。

このまま持ち帰って議論するとしても、自分たちの会派が出した答えが、他会派の意見を聞いて変わることはなかなかない問題なので、付加価値を付けることによって定数を議論する。そうすれば定数が決まった時の理由付けになるのではないかと思った。

牛尾委員長

佐々木委員の言われることはわかったが、議員間討議や政策提言を各委員会でやるために何人いるのか、というのは出しにくい。方程式があれば簡単かもしれないが。例えば通年会期を導入して、忙しくなる。だが、市民はどこがどう忙しくなったのかと聞かれる。それと一緒に議員間討議のために議員が必要というのは違う気がする。

佐々木委員

議員間討議を深めて結論を出すためには、また議論のためには多様性が必要なので人数が必要ということ。あと、例えば委員会として政策提言でも良いが、調査活動でも良いが、よりそういう活動を広めるために手分けしたら人数が必要。こういうことをするから、何かを果たすため

牛尾委員長

にこれだけの人数が必要だという考え方だが。そうすると忙しくはなるのだが。

笹田委員

なかなか難しい。

今の状況で持ち帰っても議論にならない。今日聞いた意見はだいたい前回と一緒だったので、今、持ち帰って議論しても材料がない状況。

西村委員

私は本意ではないが、仮に 22 人の案を持ち帰って議論する場合、現状より 2 人下がる。そうすると、明らかに 2 人分の多様性が失われる。ものを量的に換算して、それをどう補うのか、そういう具体性まで議員が出さないと、私は 1 人でも、2 人でも減らすのは大反対である。それは自分が議論したことを否定するようなものだ。それは絶対にこの委員会として、結論として 22 名が良いとなる場合もあるかもしれないが、その場合でもその 2 人分のマイナス部分をどうやってカバーすると。議会の中だけでなく、例えば住民も巻き込んだ形で、その 2 人分はこうしてカバーしますというようなもの、一定の論理性、根拠を持ったものも、22 人プラスそれでやりますというようなものを示さないと、私は単純に 22 人が多かったから会派としては押しますというようなことは、無責任だと思っている。

牛尾委員長

これをこのまま持ち帰ってもどうにもならないのがわかっていて、持ち帰ってくれと言ってしまった私も悪かった。お詫びする。

微妙な問題なので時間をかけないと集約は難しい。

そのためには一度持って帰ってもらって、今日の内容を会派で共有してもらいたい。

この委員会として絞るかどうか、それができるかどうか。24 人と 22 人、20 人、19 人、その根拠は今回それぞれ皆がおっしゃったし、そのそれぞれの根拠のどちらが有利かというものでもない。どうするか。

下間次長

今日、皆さんから発表はしていただいたが文字にはしてないので、一覧にして各会派がどういう考えに基づいて、その数字を出したのかを一覧にしておいた方が、各会派に持ち帰った時に間違いなく伝わるのかなと感じたのだが。

西村委員

会派で書いてもらったほうが良い。会派自身が文章にまとめたほうが良い。会派の意思が正確にこの会議で伝わっているなら良いが、少し微妙に違うと言われるとどうだろうか。

古森局長

会派で作られたものを集約して皆に提出するという意味合いか。

西村委員

そう。例えば西田委員がここで言ったことを、西田委員がもう 1 回文章にするのだ。それを最終的に事務局がまとめる。

下間次長

そうしていただけると事務局は助かるが、いったん事務局で作成した方が皆さんの方が楽なのかと思った。

牛尾委員長

今日、発言したことをまとめてくれるということ。

佐々木委員

その他が良い。

西村委員

それならそれで良い。

- 下間次長 それを一旦、皆にお返しするので、それを修正して正式なものにしてもらうことで良いか。
- 西村委員
下間次長 まあ、私は音声を持って帰らないと自分で言ったことも覚えていない。皆さん、そういうこともあるかと思う。今日の会議録から事務局で一旦、作成させていただき、皆さんへお返しをするので、それを修正してもらい、正式なものにして、これが会派としての意見なのだということを皆さんに共通認識を持ってもらうということで良いか。
- 牛尾委員長 その認識のもとに次回にまとめをする。できれば。いろいろ議員定数の根拠の新しいものをこれ以上並べても。
- 下間次長 こういう資料をと具体的に言っていたら探して作らせていただくが、こちらはどういうものが必要かよくわからない。
- 牛尾委員長 もともと当該議会が自らの意志で定数は決めるものなので、逆に言えばどこかに優れた事例があるわけでもない。
- 西村委員
牛尾委員長 そうそう。自分の経験にもとづく。自分のいるこの浜田市議会は、自分の経験も含めて定数はこれ、というものを各会派から出してもらい、それをすり合わせするしかないと思う。皆の意見は十分聞いた。定数については、一定のスケジュールの中で、減らすのか、現状維持かは結論を出さないといけない。
- 今のとおりに作成してもらい、各会派読み込んでもらい、その上で、1つにまとめるという作業をしていくことでいかがか。
- 小川委員 今日の会派に持ち帰ってやる分は西川副委員長が作られたものに基いて、(1)の①はこうだと、あのポイントに従って各会派が簡単にまとめれば、まとめた時にやりやすいのではないか。事務局はそういう形でされるのか。
- 下間次長 そのつもりです。
- 小川委員 だから、本当は今日の会議の中で、皆が持ち寄るのかと思っていた。そうすればわかりやすいかと思うのだが。せつかく、たたき台を作って、それを持ち帰って会派で検討したものなのだから。
- 牛尾委員長 定数の問題は以上で終わる。

議題2 市民アンケートを踏まえた市民の声を聞く取組について

- 牛尾委員長 これはこの間、委員会が終わった後にこの場で盛り上がって申入れ書まで作ったが、局長と次長と相談する中で、申入れよりは議会広報広聴委員会に話したほうが早いのではということで、三浦委員長と西川副委員長に間に入ってもらっていろいろ話をした。
- 現行の議会報告会の在り方を根本から変えないとそのやり方は難しいだろうと。箇所を増やすというのは、人数も制限されるし。ということで、今回については、委員会終了後に皆さんから熱い意見をいただいたが、それを10月にやるのは難しい、制約があるので難しいとのことで断念した。このことを最初に報告しておく。

その上で、今後どのようにしたら良いか。この前も意見が出たように、副議長も言われたが、あのような機能は議会改革の中で市民の意見を聞く必要があるのではないかと。三浦委員長と話す中で、それは議会広報広聴委員会と一緒にやっても良いのではないかと、議会全体を巻き込むと時間がかかるかもしれないから、もし早速、市民のニーズに応えようと思うなら、当委員会と議会広報広聴委員会のメンバーでだけでも立ち上げたほうが良いのではないかという話までした。

下間次長

はい。今日の議会広報広聴委員会の中でも、市民アンケートで市民の声を聞くという取組はとても重要だという認識をお持ちだったので、広報でも宿題という形で、委員の皆さんに今後市民の声を聞く取組として、どういった切り口が必要かということのを次回の委員会までに持ち寄ることになった。同じことを当委員会でも考えつつするのかどうか。

牛尾委員長

議会広報広聴委員会は次にいつ開催するのか。

下間次長

8月21日。

牛尾委員長

そうすると我々も同じような日程を組んで、これについては。副委員長もおられるし、議会広報広聴委員会のメンバーもおられる。どういう感じだったか。

佐々木委員

今回、10月は、またコロナが蔓延し始めたので、井戸端会は中止の方向が良いのではないかという感じだった。

牛尾委員長

コロナ、コロナでどんどん先送りしていくと議会機能が劣化する。

佐々木委員

それで、中止はするが、それに代わるもの委員会単位でも良いので、考えようと、様子を見ながらだか、そういう話になった。議会報告会にこだわらず。

笹田委員

21日の委員会でそれに代わる何かの案を持ってくるような宿題になっている。

牛尾委員長

それでは議会広報広聴委員会に任せるのか、それとも我々もそれぞれ、コロナ禍の中でどうすれば市民の意見を聞き取れるかというアイデアを揉んでくるか。

笹田委員

広報広聴に関わることは議会広報広聴委員会に任せるのが筋ではないか。ここは、ここで議会改革なので。

牛尾委員長

ではその宿題を待とうか。議会広報広聴委員会のメンバーも半分くらいおられるし。4人。

佐々木委員

広聴のあり方、広報広聴は全体の事を考えているが、我々は広報広聴をやることも含めた、議会広聴のあり方をいろいろ考えていけないといけない。

もっと言えば議会運営委員会くらいの大きなところから考えていけないといけないと感じたので発言したのだが、委員会を超えたところで議論することも必要かなと思う。

牛尾委員長

月1とか、週1とか、議会相談室をやるとしたら議会全体の問題になる。当委員会が必要だと思うものを議会運営委員会に出す、その前に当

委員会の合意が必要だろう。提案するにしても。いろいろな聞き方については議会広報広聴委員会での宿題だから良いけど、議会改革の観点から市民の民意をどのように聞き取るかについては、今の議会報告会そのものが曲がり角に来ていて、衣替えをしないとイケないとなると、うちの委員会で次の段階へ。あの議会報告会で良いのかをここで議論しなければいけない。それに代わるものということはアンケートにも出ているのだから。それに似たような、小分けの意見を吸い上げるためにどういう組織が必要か、議会改革の中でも議論すべきである。その上で、議会全体でやるべきかどうか、それは皆それぞれ考えてもらって、議会広報広聴委員会とは別に考える必要があると思うのだが。

西田委員

今回、市民アンケートをしたということは、これからの今後の広聴に向けての市民への投げかけになる。刺激したようなイメージ。それがいろんな枠が広がっていくようなことになる、だんだん広聴のあり方も自然と何らかの答えが出る気がする。それによって、広聴のあり方も柔軟にやっていく必要がある。

アンケートだけでなく、市民との対話の中から広聴のあり方のヒントが出てくるのではないか。

牛尾委員長

広聴は今、個別に出かけて意見交換をるところまで行っていない。どちらかといえば議会広報広聴委員会は広報がメインか。

笹田委員

しかし広聴にも力を入れつつある。

西田委員

市民がどういうことを議会に対して望んでいるか。不満を持っているか的確に絞られる。

牛尾委員長

それともう一つ、重要案件の意見交換会が実際は動いていない。もう少し動きやすいものへ衣替えするか。その辺りも作ったが、今まで重要案件の意見交換会を1回やったか。

下間次長

2回だったと思う。

西村委員

リサイクルセンターの関係があった。何年か前に、相手側から要請があった。

牛尾委員長

もう少し、市民側からとつきやすいようなテーマが必要。

西村委員

だからベースに、日常的な議員との集まりがないから、いきなりあのようなものを持ってきても、行きにくいのである。

佐々木委員

この前、福祉環境委員会が子育てにかかる調査をしていて、この前、子育て最中の父母に集ってもらった。あの様に特定の絞られた課題を持っているからいろんなことが伝わる。予想外の要望もあった。こういうことを積み重ねていけば、議会機能を果たせるし、政策提言もできる。重要案件も大事なのだが、そういう日ごろの素朴な住民との会話、しかもそういう所管の団体なら、議会報告会のようにだれでも良いということではなく、そういうことを積み重ねていけば、委員会の調査活動としての機能もするのではないかと思う。

笹田委員

議会改革は永遠のテーマである。今、アンケートももらって、広聴を

充実させなければいけないが、広聴については常任委員会があるのだから、そちらの方から意見があるので議論していただかないと。こちらでも、あちらでも、ということになると委員会の棲み分けが分からなくなる。そういう意味では議会改革は広い、大きな議論をしているので、他のところに振れるところは振って、意見交換をして、広聴については向こうに揉んでもらうのも良いと思う。ここはここで、別の議会改革について議論すべき。

牛尾委員長

所管委員会が意見交換会を定期的にやれば、また違うものがあるのだろう。そういうのを全部集めて議会改革がやるとなると大変である。各常任委員会が今までやってきたのだろうが、もっと積極的にやってもらうようお願いする。議会改革の一環として取り組んでほしいというようなことが良いかもしれない。何でもかんでも、ここでできるわけではないから。広報のやるべきことは、広報であるだろうし。

笹田委員

今のように各常任委員会で、団体に来てもらうのは、それは議会運営委員会でやるべきだと思う。各常任委員会で意見交換できる仕組みを作るだと、もっと推進しやすいものにするとかは。

牛尾委員長

常任委員会主義なので、常任委員会を中心に活動することになる。だから議案より所管事務調査を先にしなければというのはそのため。議会機能を見直して、特別委員会である種のまとめをして、議長に渡して各常任委員長に言ってもらうとか、そういうことをこの件についてはやるか。

下間次長

重要案件の意見交換会については実施要領を作っているのだが、25年くらいに作ってから変わっていない。各常任委員会から、項目を出してもらって7項目あるのだがそれが変わっていない。そこの部分は主催になる議会運営委員会を通して各常任委員会で再度テーマを見直してきてほしいとしても良いのかもしれない。

笹田委員

もっと議論しやすいように考える必要がある。

下間次長

今でも使える内容もある。教育問題についてといった大枠になっているので。

牛尾委員長

今回はその辺をいじるか。

下間次長

これは、あくまでも議会運営委員会の所管なので、議会運営委員会で次のテーマとして議題に1個入れて、今後やるようにすればできることである。

笹田委員

この特別委員会でそういう話があったので、ということで議会運営委員会もメンバーもおられるし。それで良い。

下間次長

今ある機能をしっかり充実させつつ、新しい試み、市民の声を聞く試みがあればそれは広聴であるため、議会広報広聴委員会の方で検討してもらいたいようなイメージか。

牛尾委員長

とりあえず予定時間が来たので、今日はこの辺で終了することで良いか。

下間次長 1点、今日、議会広報広聴委員会があり、9月号議会だよりの校正をやった。市民アンケートの原稿はイメージ的にこのようになっている。あちらでも校正されるのだが。

牛尾委員長 会派の中ではこれで良いのかということもあったが、事実なので、これがどうのこうのという類の話ではない。

下間次長 一応お知らせしておく。

議題3 その他

牛尾委員長 今後、仮に新しい定数を提案するとなると、スケジュール的にも少なくとも2回開催する必要があるだろう。

今のまとめを送ってもらって、手を入れて、次にやるとしたらどの辺でできるだろうか。8月前半で。

(以下、日程調整)

牛尾委員長 では次回は、一応仮予定として8月5日の9時半から。

下間次長 明日、私から議員全員に、この委員会で各会派からこのような意見が出た、修正があれば追記、修正して返していただきたいということでメール送付する。修正をメールで返していただけるなら、土、日を挟んで8月3日までとする。

牛尾委員長 他にないか。

佐々木委員 先ほど定数の意見を言った時に、自分は数は言っていないような気がする。

下間次長 数としては、常任委員会的人数6人ということと、3つの委員会ということで6人かける3ということで、18人ということまで言われている。

佐々木委員 18人ではなく、20人。6人かける3常任委員会で18人だが、議長を入れて19人。そうすると本会議で採決する時に議長を除くと18人になり、それはあまり望ましくないということで、20人。

牛尾委員長 他にないか。

(「なし」という声あり)

では以上で委員会を終了する。

(閉議 15時36分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により委員会記録を作成する。

議員定数等議会改革推進特別委員会 委員長 牛尾 昭 (印)